

通信 「ちえふる」 6月号

「衣替え」に、どんな意味があるの？

6月になり、街を歩く中学生や高校生の制服が替わりました。大人には毎年の光景ですが、小さな子どもには新鮮な驚きがあるようです。

そこで、今回は「衣替え」の歴史と意味について紹介します。

衣替えがいつから始まったかという、平安時代からだそうです。中国の習慣が日本に伝わり、旧暦の4月1日と10月1日に着物を替える「更衣（こうい）」という宮中行事になりました。それが庶民の間にも広まり、「衣替え」になったということです。

その後、江戸時代には年4回の衣替えの日が定められ、明治時代になると役人や軍人、警察官の制服を洋服にして、夏服と冬服の衣替え期間も現在のよう新暦の6月と10月に決めました。学生服やセーラー服はもともと軍服からきているので、学校の衣替えも同じ頃となったようです。

では、どんな意味があるのでしょうか。

例えば、暑くなっていく季節には夏物を着用するという機能的なこと、これまで着ていた服をチェックし物を大切にすることなどがありそうですが、興味深い言葉を目にしたので紹介します。

和文化研究家の三浦康子さんが提唱している「行事育」という考え方で、日本の年中行事を大切にすることにより、人生を豊かにするというものです。

身近な生活の中の一コマに疑問や興味・関心を持つことは、私たちの生活を豊かにしてくれそうですね。

【心豊かになる】

風流を理解する心やおもてなしの心など、行事の中にある伝統文化に触れることで、日本人らしい心を身につけることができる。また、歴史のある衣替えの意味を理解することで、日本文化について考えるきっかけとなる。

【賢くなる】

伝統文化としての行事を行うことで、その中に込められている知恵や知識を得て、礼儀作法を身につける。服装をきちんとすることは礼儀の一つなので、衣替えは、それを知るいい機会になる。

【元気になる】

季節にあった服装に替えることで、気分がリフレッシュする感じがしてくる。



Q：「衣替え」は、年に2回または4回あります。

さて、いつの季語になるのでしょうか？

(ヒントは、下の俳句・・・)

一つぬいで うしろに負ひぬ 衣がえ
松尾芭蕉

旅の途中なので、衣替えの日になって
も着替えの()物がない。

着ていた一枚を脱いで後ろに背負い、
これで衣替えが済んだことにしよう。

A：(夏)

今月の休館日

6月16日(月)

天童市学習支援室
「リバテラスちえふる」
TEL (023) 651-6205